

戦争を透して見た中国古代の民族問題

—『多民族社会の軍事統治 出土史料が語る中国古代』の出版—

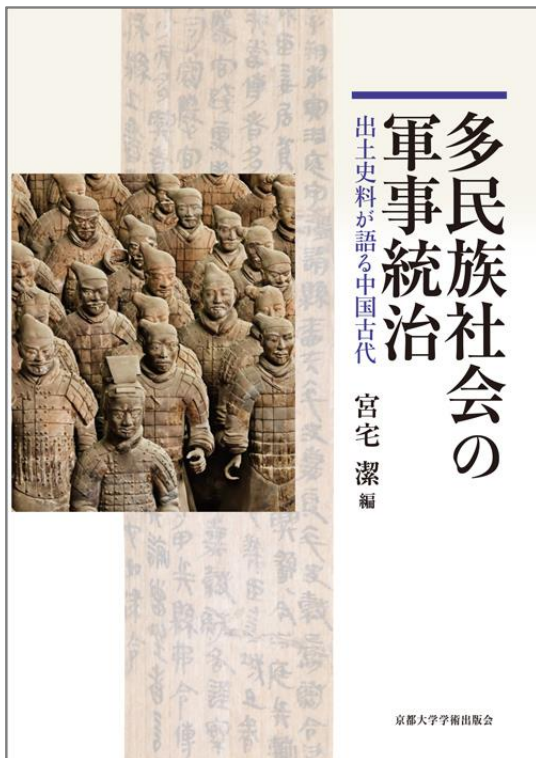
概要

京都大学人文科学研究所 宮宅潔 准教授の編著『多民族社会の軍事統治 出土史料が語る中国古代』が、2018年4月に京都大学学術出版会より出版されました。

日本における中国軍事史の研究は、政治史・経済史といった分野に比べると、あまり活発ではありませんでした。それにはいくつかの理由がありますが、第二次大戦での敗北以降、「戦争」の研究がタブー視されたことが一つの要因です。宮宅准教授が代表を務める研究プロジェクト（科学研究費補助金（基盤B）「中国古代の軍事と民族」）では、タブーを越えて軍事史研究を進めることを目指し、特に民族問題と戦争との関係に研究の焦点をすえました。

現在、中国に暮らす人口のほとんどが「漢民族」に属しますが、歴史をさかのぼれば、中国にはもっとさまざまな民族が存在しました。戦争を契機にして、それらの集団が混じり合い、反目と融合とを繰り返してきたはずですが。こうした問題を明らかにすべく、日中韓欧の中国古代史研究者がこのプロジェクトに参加しました。

その成果報告書である本書には、秦漢～隋唐時代の占領統治の具体像や、被征服民の軍事利用などについて論じた13篇の論文が収められています。それらにより、秦の始皇帝が中国を統一した時、各地に役人や兵士を送り込んだものの、彼らへの食料供給制度が未整備だったことや、漢代に万里の長城の西端で防備に就いた兵士は、当初は帝国東部の出身者だったのが、次第に現地住民に切り替えられたことなど、新たな史実が明らかになりました。本書により中国軍事史の研究が活性化し、「中国」をより深く理解する手がかりとなることが期待されます。



(上) 敦煌（とんこう）付近に築かれた漢代の「万里の長城」。漢代はこの長城を西の端としていた。（撮影：宮宅潔）

(左) 本書の表紙

1. 書籍タイトル・著者・目次

タイトル：多民族社会の軍事統治 出土史料が語る中国古代（京都大学学術出版会、2018）

編者：宮宅 潔（人文科学研究所・准教授）

目次

- ・研究動向篇
 - 中国古代軍事史研究の現状（宮宅 潔）
 - 「闘争集団」と「普遍的軍事秩序」のあいだ－親衛軍研究の可能性－（丸橋充拓）
- ・論考篇
 - 征服から占領統治へ－里耶秦簡に見える穀物支給と駐屯軍（宮宅潔）
 - 秦遷陵県の「庫」に関する初歩的考察（陳偉）
 - 漢帝国辺境軍隊の社会構造（エノ・ギーレ）
 - 漢代辺境警備体制の変容（鷹取祐司）
 - 秦漢「内史－諸郡」武官変遷考－軍事体制より日常行政体制への転換を背景として－（孫聞博）
 - 漢代における周辺民族と軍事－とくに属国都尉と異民族統御官を中心に－（佐藤達郎）
 - 漢帝国の辺境支配と部都尉（金秉駿）
 - 前秦政権における「民族」と軍事（藤井律之）
 - 北魏道武帝の「部族解散」と高車部族に対する羈縻支配（佐川英治）
 - 唐前半期における羈縻州・蕃兵・軍制に関する覚書（森部豊）
 - 唐代高句麗・百済系蕃将の待遇及び生存戦略（李基天）

2. 書誌情報

書名：多民族社会の軍事統治 出土史料が語る中国古代

編著者：宮宅 潔（編）

出版社：京都大学学術出版会

ISBN：9784814001361

発行年月：2018年4月

本体価格：4,800円（税別）

書籍詳細ウェブページ URL：<https://www.kyoto-up.or.jp/books/9784814001361.html>

3. 研究プロジェクトについて

本書は、日本学術振興会科学研究費助成事業（科研費）・基盤研究（B）「中国古代の軍事と民族－多民族社会の軍事統治－」（代表者：宮宅潔・京都大学、研究課題番号：25284133、研究期間：2013年4月1日～2018年3月31日）の成果報告書として出版されました。